

第2号議案 平成21年度事業報告及び決算報告承認の件

I. 平成21年度事業報告

当学会は、平成21年度も定款の定めのとおり、物理探査の学理及びその応用に係る技術の進歩、普及並びに物理探査に携わる技術者の資質の向上を図り、もってわが国の学術文化並びに社会の発展に貢献、寄与することを目的とし、これを達成するために研究開発事業、探査技術の普及促進事業、広報活動及び表彰等の事業を実施してきました。

以下、平成21年度の活動状況の詳細についてご報告いたします。

1. 学会事業活動

[1] 研究開発奨励促進事業

物理探査学に係る専門知識・技術の普及、人材育成のため以下の事業を実施した。

(1) 研究開発成果に係る発表会等の開催事業

(イ) 第120回学術講演会

開催日 平成21年5月25日(月)～5月27日(水)

開催場所 早稲田大学(東京)

特別講演 以下の講演2件

- ・「陸域観測衛星『だいち』と地球観測」

島田 政信 (宇宙航空研究開発機構(JAXA) 地球観測センター上席研究員)

- ・「わが国の延長大陸棚について」

谷 伸 (内閣官房 総合海洋政策本部事務局 内閣参事官)

一般講演：口頭発表41題 ポスター発表7題

参加者 196名

(ロ) 第121回学術講演会

開催日 平成21年11月23日(月)～11月25日(水)

開催場所 名古屋大学(名古屋)

特別講演 以下の講演2件

- ・「海溝型巨大地震研究における海底地殻変動観測の重要性と展望」

田所 敬一 (名古屋大学大学院 地震火山・防災研究センター 准教授)

- ・「何が過去100年の地球気温を支配したか?～NASA/GISS世界気温DBの解析」

小川 克郎 (名古屋産業大学環境マネジメント研究科長)

一般講演：口頭発表64題 ポスター発表20題

参加者 151名

見学会・学生イベント：東濃地科学センター瑞浪超深地層研究所の見学及び学生イベ

ントを開催

参加者 29名

(ハ) 第9回国際シンポジウム

開催日 平成21年10月11日(日)～10月14日(水)

開催場所 北海道大学(札幌)

テーマ：Imaging and Interpretation

– Science and Technology for Sustainable Development –

一般講演：口頭発表76題 ポスター発表58題

参加者 187名

特別講演、市民参加行事(昭和山山巡検；参加者39名)、市民交流会の開催

(2) 会誌発刊事業

平成 21 年度は、学会誌「物理探査」Vol.62,No.1～No.6 の 6 冊を発刊した。そのうち Vol.62,No.1 は豪州物理探査学会(ASEG)・韓国物理探査学会(KSEG)との共同出版である。

(3) 調査、資料収集に係る事業

平成 21 年度は、調査、資料収集に係る事業として、

- ・ 件名「物理探査活動データベースにかかるアンケート調査並びにデータ整理作業」を(独)産業技術総合研究所から受託し、実施した。

(4) 技術開発、研究開発に係る事業

技術開発、研究開発に係る事業として、以下の事業を実施した。

(イ) 研究会活動

- ・ 第 5 回地盤探査研究会

開催日 平成 22 年 1 月 12 日(火)

開催場所 早稲田大学(東京)

テーマ 「弾性波探査における解析・解釈技術の継承」シンポジウム

基調講演(3 題)

「ハギトリ法による解析のプロセスと留意点」

財津俊郎 (元、サンコーコンサルタント(株))

「ハギトリ法とトモグラフィ解析」 斎藤秀樹 (応用地質(株))

「山岳トンネル地質調査としての弾性波探査の適用」

吉田壽壽 (日本物理探査(株)、社友)

参加者 60 名

(ロ) 受託研究委員会

平成 21 年度は、以下の 3 つの受託研究委員会を設立し、それぞれの委員会において、受託した技術開発、研究開発を実施した。

- ・ 河川堤防研究委員会

(独)土木研究所発注の「河川堤防への統合物理探査適用過程文書化業務」を受託し、標記委員会において、土木研究所、産業技術総合研究所、地質調査会社及び設計コンサルタントと協力して実施してきた基礎研究及び現地適用実験等の成果をまとめて、マニュアルの版下作成を行った。

- ・ トンネル探査研究委員会

(独)鉄道建設・運輸施設整備機構発注の「北海道新幹線、物理探査解析手法の開発」を受託し、標記委員会において、既存の屈折法結果とトンネル施工実績との対比、過去の屈折法ノウハウの整理及びマニュアル化、物理探査方法の検討、施工(調査)中のトンネルでの検証及び解析ソフトウェアの製作を実施した。

- ・ 物理探査書式検討委員会

(独)土木研究所発注の「地盤物性断面表示プログラム設計業務」を受託し、標記委員会において、土木分野の物理探査の調査結果の標準書式の設計及び標準書式データの図化ソフトウェアの作成に係る研究を実施した。

[2] 探査技術の普及促進事業

物理探査技術の普及促進、人材育成等のため、セミナー、キャンパスビジット、講習会等を実施した。併せて、関連学協会と講演会等で互いに後援・協賛を行うとともに、技術士継続教育について生涯学習支援システムの共同運営を継続した。

(イ) 物理探査セミナー

開催日 平成 21 年 6 月 23 日(火)～6 月 25 日(木)

- 開催場所 産総研臨海副都心センター(東京) 参加者 延 167 名
- (ロ) ワンデーセミナー
開催日 平成 21 年 1 月 29 日(金)
開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)
テーマ 「地震波干渉法」 参加者 60 名
- (ハ) 関連学協会との連携・協力
- ・国内関連学協会
平成 21 年 5 月に開催された日本地球惑星科学連合 2009 年大会では当学会に関連したセッションが実施された。併せて、(社)資源・素材学会、(社)日本リモートセンシング学会、日本地熱学会、(社)日本地震学会、日本応用地質学会、(社)地盤工学会、計測自動制御学会、石油技術協会と講演会等で互いに後援・協賛を行った。
 - ・海外関連学会
下記関連国際学会の講演会・年次総会に参加し、国際交流を深めると共に国際レベルの物理探査技術を会誌、HP 等を通じて紹介した。
欧州物理探査学会(EAGE) (6 月 8 日～11 日)
米国物理探査学会(SEG) (10 月 25 日～30 日)
環境土木物理探査学会 (EEGS) (3 月 29 日～4 月 2 日)
韓国物理探査学会 (KSEG) (10 月 21 日～22 日)
ベトナム物理探査学会 (VAG) (12 月 12 日～13 日)
中国石油物理探査学会との協力協定に調印(10 月 13 日)
 - ・SEG 教育プログラムの開催支援
海外の関連学会 SEG が主催し日本国内で実施する物理探査技術の普及・啓蒙活動に対して、本年度も下記のとおり、会場の準備、参加者の募集等、その支援を行った。
SEG/EAGE 2009 Distinguished Instructor Short Course (DISC)
開催日 平成 21 年 6 月 19 日(金)
開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)
SEG 2009 Distinguished Lecture (DL)
開催日 平成 21 年 7 月 1 日(水)
開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)
SEG 2010 Distinguished Lecture (DL)
開催日 平成 22 年 1 月 18 日
開催場所 産総研臨海副都心センター(東京)
- (ニ) 継続教育活動
平成 21 年度も、事業委員会が中心になって技術士継続教育について、関係 7 学協会と連携して生涯学習支援システムの共同運営を継続した。

[3] 広報活動

物理探査技術を一般社会へ広く普及、啓蒙等を行うため、以下の広報に係る活動を実施した。

- (イ) 物理探査ニュースの発刊
平成 21 年 1 月に「物理探査ニュース」創刊号を発刊、本年度 4 回のニュースを発刊した。
- (ロ) 啓蒙書の発刊
物理探査学を含めた、地球の科学及び技術一般を理解してもらうため、主に高校生、大学 1～2 年生を対象とした啓蒙書を作成し、広く公開、配布する。本年度は、内容

を検討し、それを基に執筆を進め、編集を開始した。

(ハ) 技術資料等の頒布

既存の技術資料等の出版物を本年度は以下のとおり継続して頒布した。

| | |
|--------------------------|-------|
| 物理探査ハンドブック | 43 冊 |
| 物理探査適用の手引き(英文) | 15 冊 |
| 最新の物理探査適用事例集 冊子・CD | 54 冊 |
| 新版物理探査適用の手引き 冊子・CD | 107 冊 |
| 会誌「物理探査」 DVD(第1巻～第60巻) | 22 部 |
| 学術講演会論文集 DVD(第43回～第118回) | 14 部 |
| 国際シンポジウム論文集 DVD(第1回～第8回) | 8 部 |
| 図解物理探査 CD | 2 部 |

(ニ) WEBの更新、維持管理

学会HPを更に見やすく、かつ親しみやすいものへと更新、維持管理を継続して実施した。

[4] 研究業績及び永年在籍等の表彰

物理探査学に係わる研究及び活動に対して、平成21年度通常総会において以下の学会賞、奨励賞、優秀発表賞、永年在籍者表彰並びに名誉会員推薦等を行った。

(イ) 物理探査学会賞

平成21年度通常総会において以下のとおり、物理探査学会論文賞1件及び学会奨励賞2件を表彰した。

1) 物理探査学会論文賞

- ・受賞者：中塚 正 ((独)産業技術総合研究所)
大熊 茂雄 ((独)産業技術総合研究所)
対象論文：「空中磁気探査の高精度・高分解能データ処理に関する一連の研究」
第59巻1号(2006) pp.121-128、及び第59巻5号(2006) pp.449-458

2) 物理探査学会奨励賞

- ・受賞者：武川順一 ((財)地域地盤環境研究所)
対象論文：「不連続破壊現象の数値シミュレーション法に関する研究」第60巻
2号(2007) pp.171-182、及び第61巻2号(2008) pp.169-179
- ・受賞者：白石和也 ((株)地球科学総合研究所)
対象論文：「地震波干渉法の応用に関する研究」第61巻2号(2008) pp.101-109、
及び第61巻2号(2008) pp.111-120

(ロ) 学術講演会等における優秀発表賞

平成21年度通常総会において、前年度学術講演会の優秀発表賞として以下を表彰した。

- ・第118回春季学術講演会
優秀発表賞：窪田健二、河村陽介、山崎鍾史
- ・第119回秋季学術講演会(ポスターのみ)
優秀ポスター賞：越智公昭、下野祐典、上田 匠、坂田玄輝

(ハ) 永年在籍表彰

平成21年度通常総会において、正会員4名(信本亮一、前田憲一、福富幹男、古市周二)、並びに賛助会員2社(30年表彰：中日本航空株式会社、50年表彰：

(独)日本原子力研究開発機構)をそれぞれ表彰した。

(二) 名誉会員

平成 21 年度通常総会において小川克郎氏及び毎熊輝記氏を名誉会員に推薦した。

[5] 臨時委員会

物理探査技術の普及促進、社会への貢献のため、以下の臨時委員会活動を実施した。

(1) ニュース委員会

ニュースレター「物理探査ニュース」を平成 21 年 1 月に創刊号として第 1 号を発刊し、以降、4 号までを発刊した。

(2) 公益法人化検討委員会

平成 20 年 12 月 1 日から施行された新公益法人制度に向けて、当学会は公益社団法人移行申請を 21 年 11 月 30 日に申請を行った。

(3) 啓蒙書編集委員会

企画開発委員会を中心に、高校生、大学 1~2 年生を対象とした啓蒙書の執筆・編集を開始した。

2. 学会の経営・運営に関する会議の開催

[1] 通常総会

平成 21 年 5 月 26 日(火) 東京 早稲田大学国際会議場にて開催

[2] 臨時総会

平成 21 年 8 月 4 日(火) 東京 東京大学工学部新 2 号館にて開催

[3] 理事会 平成 21 年度中に 9 回開催

(平成 21 年 4 月、6 月、8 月、9 月、10 月、12 月、平成 22 年 1 月、3 月)

[4] 運営幹事会 平成 21 年度中に 2 回開催

(平成 21 年 7 月、平成 22 年 2 月)

3. 会員の状況

会員の現況(平成 22 年 3 月 31 日現在)

| | H22.3 末 | H21.3 末 | 増 減 |
|------|-------------|-------------|------------|
| 名誉会員 | 26 | 27 | 1 名減 |
| 正会員 | 1358 | 1361 | 3 名減 |
| 内学生 | 84 | 66 | 18 名増 |
| 賛助会員 | 126 社 281 口 | 138 社 297 口 | 12 社、16 口減 |

職場班 65 班

以上